

令和7年度（2025年度）はこだてスマートムーブデーの実施状況について（報告）

1 実施日 毎月第1金曜日

2 参加団体数 72団体（団体職員数（会員数）計7,959人） ※参加団体の名称は、別紙「参加団体一覧表」を参照

3 取組内容の登録状況

取組内容	取組団体数	取組団体の割合
ノーマイカーによる移動	40団体	56%
エコドライブの実施	64団体	89%
テレワークの実施	23団体	28%

4 参加団体の独自の取組

- 会議やイベントのオンライン化による移動の削減
- 社員の健康増進の取組み「ウォーキングフライデー（ウォー金）」実施
- 毎週火曜日はエコドライブの実施
- ゼロカーボン・ドライブ（社有車3台）
- 社有車への電気自動車やハイブリッド車，プラグインハイブリッド車の導入（アイドリングストップ車も含む）
- 急ブレーキ急発進の防止
- 四半期ごとに業務用車両の燃費を計測して事業所内へ周知
- 人にも配慮したゆとりのあるドライブの実践 など

5 広報活動

（1）ポスター，チラシ等の掲示・配布

- ①市の公共施設 本庁舎など
- ②公共交通機関
 - ・函館バス 横断幕の掲示9台（毎月2週間程度掲示）



（2）構成団体による事業の周知

WEBサイト掲載のポスター兼チラシや啓発ツールの活用

（3）構成団体から関係団体等への参加依頼

協議会構成団体から関係団体への参加の働きかけによる参加団体の拡充

（4）広報紙等への掲載

- ①市の広報紙
 - 広報市政はこだて（9月号），環境部ニュース（115号（7月発行））
- ②函館商工会議所会報「ともえ」（2月号）

（5）報道機関等を通じた広報

- ①新聞社への報道依頼
- ②ラジオ放送：FMいるか「いるかエコのすすめ」（7月8日（火）放送）
- ③街頭放送（函館時事放声社） ※年間を通して可能な範囲で放送 ※無償協力

(6) ソーシャルメディア (SNS)

- ①ごみ分別アプリ「さんあ〜る」(登録者数 約 20,822 人) で毎月周知
- ②函館市公式X (エックス) : 毎月配信

(7) イベント会場等での広報

①はこだて・エコフェスタ2025 in 函館 蔦屋書店

(9月13日(土)～14日(日) 11:00～16:00)

- ・スマートムーブに関するクイズ
(1日目 150名, 2日目 159名, 計 309名)
- ・スマートムーブに関する展示
(パネル, のぼり)
- ・はこだてスマートムーブデー表彰式
日時 9月13日(土) 11:45～
当日出席 道南清水サッシ(株)
※欠席の5団体には後日表彰状を手渡し



② 交通安全教室との連携

- ・市民部が実施する交通安全教室(成人向け)でスマートムーブデーのチラシ配付
(9団体, 162枚配布)

6 はこだてスマートムーブデー参加団体アンケート

- ・調査期間 令和8年(2026年)1月28日～令和8年(2026年)2月20日
- ・調査対象 はこだてスマートムーブデー参加登録団体 72団体
- ・回答団体 64団体(回答割合 86.1%)

<集計結果>

(1) この事業(スマートムーブデー)に参加している理由で最も近いものはどれですか。

- ①環境(地球温暖化対策等)への貢献 ②健康増進 ③地域活性化
- ④企業のイメージアップ ⑤その他(自由記述)

	回答数	割合
①	46	74.2%
②	4	6.5%
③	10	16.1%
④	2	3.2%
⑤	0	0.0%
合計	62	

参加理由は①「環境(地球温暖化対策等)への貢献」が74.2%と最も多く、次いで③「地域活性化」が16.1%となったが、他の理由はそれぞれ4件以下で少なかった。

(2) 団体内で取り組んでいる内容はどれですか。

- ①ノーマイカーによる移動 ②エコドライブの実施 ③テレワークの実施
④その他独自の取り組み

	回答数	割合
①	36	58.1%
②	55	88.7%
③	18	29.0%
④	2	3.2%
回答団体数	62	

団体内での取組内容は②「エコドライブの実施」が88.7%の団体で取り組まれており、次いで①「ノーマイカーによる移動」が58.1%となった。

(3) 団体内で、スマートムーブデーに参加(実践)している職員の割合はどれですか。

- ①8割以上 ②6割～8割程度 ③半分程度 ④2割～4割程度 ⑤2割未満

スマートムーブデー参加割合		
	回答数	割合
①	17	27.4%
②	6	9.7%
③	15	24.2%
④	14	22.6%
⑤	10	16.1%
合計	62	

団体内の参加割合は、半分以上(①～③)の団体が合わせて61.3%となっており、4割以下(④、⑤)の団体は合わせて38.7%となっている。

(4) 参加者の内、ノーマイカー、エコドライブ、テレワークの取り組みを実践している割合はどれですか。

- ①8割以上 ②6割～8割程度 ③半分程度 ④2割～4割程度 ⑤2割未満

ノーマイカー実践割合			エコドライブ実践割合			テレワーク実践割合		
	回答数	割合		回答数	割合		回答数	割合
①	7	11.3%	①	33	53.2%	①	6	9.7%
②	3	4.8%	②	8	12.9%	②	3	4.8%
③	9	14.5%	③	8	12.9%	③	3	4.8%
④	11	17.7%	④	4	6.5%	④	3	4.8%
⑤	11	17.7%	⑤	1	1.6%	⑤	8	12.9%
⑥	21	33.9%	⑥	8	12.9%	⑥	39	62.9%
合計	62		合計	62		合計	62	

エコドライブの実践割合は、①「8割以上」が53.2%と多く、他の取組よりも浸透していることがわかる。

ノーマイカーおよびテレワークは、⑤「2割未満」と⑥「該当しない(取り組んでいない)」を合わせると、それぞれ51.6%、75.8%と半分以上を占め、実践している割合は低い。

(5) 「ノーマイカーによる移動」に取り組んでいる団体にお尋ねします。

団体として推奨している移動手段はどれですか（複数回答可）。

①徒歩 ②自転車 ③バス ④路面電車 ⑤鉄道（JR・道南いさりび鉄道） ⑥その他

	回答数	割合
①	33	27.5%
②	22	18.3%
③	32	26.7%
④	21	17.5%
⑤	11	9.2%
⑥	1	0.8%
合計	120	

⑤「鉄道」以外は、どれもまんべんなく 20%前後の割合となった。

⑥「その他」の詳細は、ライドシェアであった。

(6) 本事業のホームページに掲載している「参加団体用啓発ツール」について、利用したものはありますか。（複数回答可）

①事業所（団体）内での啓発用掲示物 ②社内報（団体会報）や一斉メールでの周知文例
③ポスター ④自転車リーフレット ⑤エコドライブ10のすすめ

	回答数	割合
①	17	26.2%
②	10	15.4%
③	21	32.3%
④	2	3.1%
⑤	11	16.9%
⑥	4	6.2%
合計	65	

①「事務所（団体）内での啓発用掲示物」および③「ポスター」の利用で、合わせて 58.5%と半数以上を占めた。また、「自転車リーフレット」については利用が 3.1%であった。

(7) 団体内での参加者を増やすために行っている独自の取組やアイデア（自由記述）

- ・街頭放送等により、スマートムーブデーにおけるエコな移動を周知している。
- ・毎月の実施日前日に放送を行い、職員への呼びかけを実施している。
- ・大学教員については従来テレワークが認められていなかったが、熱中症対策としてテレワークを可能とするよう、北海道教育大学職員テレワーク規則の一部を改正した。これにより、はこだてスマートムーブデーにおけるテレワーク参加者の増加が今後期待される。
- ・館内掲示や業務連絡ツール等を活用し、スマートムーブデーの実施を継続的に案内している。公共交通機関の利用や徒歩通勤が可能な職員には積極的な利用を呼びかけるとともに、自動車利用時においてもエコドライブの実践を意識づけている。今後は、若年層の利用が多い施設特性を踏まえ、来館者やイベント参加者へ施設全体での啓発にも取り組む予定。
- ・毎日の朝礼においてエコドライブの徹底を呼びかけている（社内では「やさしい運転」と称し、重点的に取り組んでいる）。
- ・事務所にポスターを掲示し、来所者の目に触れるようにしている。
- ・乗り合い通勤によりガソリン代の節約につながる点を周知している。
- ・グループウェアの掲示板機能を活用し、毎月参加を呼びかけている。

(8) 団体内で取り組む上での課題等（自由記述）

- ・乗務員は朝が早い業務であるためノーマイカーへの取り組みは難しいが、一般事務職については取り組みを強化してきた。しかし、エコドライブは乗務員・事務職員を問わず実施可能であることから、全社的に強く推奨している。
- ・社員の多くが営業活動で車を使用するため、取り組みの推進が難しいのが実態だ。
- ・はこだてスマートムーブデーへの参加による環境や地域への貢献度を具体的な数値で示すことができず、効果を実感しにくい。
- ・学生の多くは自動車を所有していないため、成果を上げにくい状況である。
- ・自動車がなければ通勤が困難なので、個々の運転スタイルにまで踏み込んだ指導は難しい。
- ・公共交通機関の拡充が必要である。
- ・ノーマイカーデーの設定にまで至っていない。
- ・冬期間は気温等の影響により実施が難しかった。
- ・会社から通勤費が支給されているため、スマートムーブデーの実施日数が増え乗り合い通勤が増加すると、通勤費の変更や返還が生じる可能性がある。

(9) その他、意見等（自由記述）

- ・市民への浸透が十分とは言えないため、広報活動をより活発化させてはどうか。
- ・ステッカーを作成し、営業車や一般車に貼るなど取組みを拡大してはどうか。
- ・当日は参加企業の従業員を対象に、市電やバスを無料で利用可能とする仕組みを導入してはどうか。あわせて、飲食店のクーポンをウェブサイト上に掲載し、ノーマイカーを推進しつつ外食を楽しむ日として位置付けてもよいのでは。さらに、「はこだて健幸アプリ Hakobit」との連動により、メディアに取り上げられるような内容になるのではないか。
- ・もう少し商業・経済の観点をもう少し盛り込むことで、参加しやすくなるのではないか。
- ・環境配慮の取組として、職員の意識醸成につながるよい事業だと思う。今後も継続的に実施するとともに、参加しやすい周知方法や事例紹介などがあると、より団体内での取組推進につながると考えます。
- ・温室効果ガスの削減、個人の健康増進にもつながる良い事業だと感じている。
- ・はこだてスマートムーブデーは、市民はもとより函館市内の企業に対しても広くアピールできるツールが必要だと思う。取組にあたっての特典があっても良いかと思う。
- ・参加団体や個人に対し、函館市内で利用可能な銭湯や温泉等の割引券を付与すれば、もっとやる気が出るのではと思う。

はこだてスマートムーブデー参加登録団体一覧表

No.	団体名	No.	団体名
1	(一社) 函館国際コンベンション協会	37	函館市亀田商工会
2	(有) 函館時事放声社	38	函館東商工会
3	函館大谷短期大学	39	(株) 松本組
4	(株) 富士サルベージ	40	北海道教育大学函館校
5	函館商工会議所	41	函館街づくり開発(株) 函館コミュニティプラザ G スクエア
6	サイエンス・サポート函館	42	ロシア極東連邦総合大学函館校
7	(一社) 函館地区ハイヤー協会	43	(一社) 函館建設業協会
8	北海道ガス(株) 函館支店	44	(一財) 函館市住宅都市施設公社
9	函館地区バス協会	45	(一社) 函館地区トラック協会
10	函館バス(株)	46	(一社) 函館青年会議所
11	(株) アイズ	47	北海道電力ネットワーク(株) 道南統括支店
12	(株) 菅原組	48	(福) かいせい
13	明治安田生命保険(相) 函館支社	49	函館地方气象台
14	(大) 公立はこだて未来大学	50	函館エコライフ推進プロジェクト
15	(公財) 函館市文化・スポーツ振興財団	51	F M いるか
16	道南清水サッシ(株)	52	北海道旅客鉄道(株) 函館支社
17	生長の家函館教化部	53	函館バス商会(株)
18	函館工業高等専門学校	54	第一環境(株) 函館事務所
19	パソコンショップPCaGOGO(株) リッツ・コンピュータ	55	(株) 北海道銀行函館駅前支店
20	道南いさりび鉄道(株)	56	全水道函館水道労働組合
21	函館短期大学	57	(株) 北海道新聞社函館支社
22	函館市役所職員労働組合書記局	58	函館環境衛生(株)
23	函館朝市協同組合連合会	59	イオン湯川店
24	(株) エスイーシー	60	無印良品シエスタハコダテ
25	函館市女性会議	61	第一生命保険(株) 函館支社
26	(株) 相互建設	62	北海道中小企業団体中央会道南支部
27	北海道労働金庫	63	大丸株式会社道南支店
28	北海道開発局函館開発建設部	64	三井住友海上火災保険(株) 函館支社
29	北海道渡島総合振興局	65	ヴィレッジアンドカンパニー
30	(株) ドコモ C S 北海道函館支店	66	オカダビル株式会社
31	函館市	67	ブリヂストンタイヤソリューションジャパン(株) 函館営業所
32	北海道大学水産学部	68	自然倶楽部
33	(株) タクマテクノス北海道日乃出事業所	69	函館都心商店街振興組合
34	(一財) 北海道国際交流センター	70	北海道菓子工業組合 函館支部
35	(一社) 北海道中小企業家同友会函館事務所	71	佐川急便株式会社
36	(特非) 南北海道自然エネルギープロジェクト	72	函館美容業協同組合